

カメラリポート



海をいっこの場に

住民が気軽に海と親しめる海岸を、という事ですでに工事が進んでいる「高知海岸なぎさリフレッシュ事業」の起工式が十一月二十七日、久枝海岸で行われました。この事業は建設省が全国八海岸を指定して行っているもので、今回高知海岸では物部川河口から西へ約一七〇〇メートルを工事の予定。ここは空港が近く、高知のシンボルになるようにと、緩傾斜堤防上に長さ約百五十メートルのマッコウ鯨とニタリ鯨が描かれ、空から見下ろせるようになるそうです。

健康づくりを考える



中央保健所管内健康づくり婦人会（矢野喜久子会長）が主催する研修会が、11月30日に南国市商工会館で行われ、約110人が参加しました。これは健康づくり婦人会活動を管内7市町村の交流の中で考えようと思われたもの。稲生地区独居老人の給食サービスに携わっている浜田光子さんが「南国市独居老人訪問給食」と題して体験発表。その後、構成劇や、高知赤十字病院長の長崎彬さんによる「救命救急のあり方」についての記念講演が行われました。

火の用心。まずはわが家から。



十一月二十二日に、婦人防火クラブ連合会（中村朋子会長）主催の「バザーが大浦の土曜市会場で行われ、大勢の出入でにぎわいました。この会は日ごろから消防器具の普及に努めたり、消防学校で勉強したりして、各地域での防火活動に努めています。「わが家からは火事は出さない」をスローガンに、毎年防火シーズンに合わせて実施されているこのバザー、始まって一時間もしないうちに完売するほどの盛況ぶりでした。

龍馬に学ぶ



坂本龍馬の先祖を祭る才谷の坂本神社で11月14日、龍馬をしのぶようと、「才谷村坂本神社龍馬祭」が催されました。これは才谷村坂本神社龍馬祭実行委員会（岡裕之委員長）の主催で、約100人が参加。「それぞれの龍馬」と題し、大町市長ら3人が発表したあと、「しのぶ」会用意。参加者は龍馬太鼓をバックに、楽しい歌謡のひとときを過ごしました。



全国人権週間中の十二月八日、高知地方事務局と県人権擁護委員連合会がその啓発活動として、若保育所、稲生保育所、長岡小、稲生小にカレンダーやメモ帳をプレゼントしました。「人をうんと大事にしましょうね」と擁護委員さんから風船をもらった園児たちは「はい！」と元気よく返事ができていました。みんなで大切な人権を守り、差別やいじめのない社会をつくっていかねばなりません。



たよれる味方

12月8日、社会福祉センターで民生委員児童委員の伝達式がありました。日ごろから地域住民の福祉の向上に尽力されている民生委員さん。今回2名増えて112名に委嘱状が手渡されました。これからは地域住民の心強い味方となつてがんばってください。

いっしょにあそぼ

11月22日（日）、南国市保育所（園）保護者連合会（棚野弘靖会長）が南国市保育祭を実施。市内16園相互の交流を図るために始められたもので今回が20回目。去年から会場を巨峰園に移したことから、参加者も急増。穏やかな天気にも恵まれたためか、市内外から2千人を超える人出。綱引きゲームや人形劇などのアトラクションも盛り沢山で、市内16園の出す出店も盛況で昼過ぎにはほとんど完売となりました。



十一月二十二日（日）、大塚小学校体育館で、教育関係者・PTAなど約三百五十人ほどを集め、第七回南国市生涯学習フェスティバルを開催。岡崎武治さんの「高齢者の声」入選作文の朗読、シンポジウム、作家の早乙女勝元さんの「これからの家族と地域のふれあい」と題する記念講演などが行われました。「二十一世紀の主役を、どう育てるか」をテーマとしたシンポジウムには、小学校の先生、PTA、地域社会で活動しているパネリストが、活発な意見発表を行いました。